

議長／皆さんおはようございます。

前日に引き続き、本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は、7番 池田議員の質問まで、終わりたいと思います。

それでは、18番 山口昌宏議員の質問を許可いたします。

ご登壇を求めます。

18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／おはようございます。

登壇の許可をいただきましたので、ただいまから、一般質問をさせていただきます。

きょうは中身として5項目あげてます。

まず初めに、つながる部のほうに、健康寿命ということでお尋ねをしたいと思います。

市長が就任以来、健康寿命、私の在任中に1歳は延ばしたいという話をされていますが、では、健康寿命って何なのと。

今の政府の健康寿命の男性の平均が71歳。

女性が74歳、ということだそうです。

市長にまず、そこで健康寿命とは、何かをお尋ねします。

議長／小松市長

小松市長／おはようございます。

議員ご指摘の通り私は健康寿命を1歳延ばしたいと思っています。

一般的に平均寿命というのはよくいわれる話で、人生の中にはどうしても病気をしたり、介護が必要になったりということがあります。

介護も必要にならない、日常生活にとって支障をきたさない、健康で元気にいられる、その年齢の平均ということで、健康寿命というふうに私は申し上げております。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／自分の家庭のことを言うのも変なんですけど、うちの両親が、2人とも93歳で、あの世へ行きましたけれども、そのときに、90歳までくらいは両親とも元気だったんです。

そういう中で、うちの嫁が飯を、ご飯を食べるときに、若い嫁さんのほうと、その当時、8人おりましたので嫁さんと話しながら飯を食べていたんです。

私の時代の推移(?)やろうかと。

何かわかりますか。

結局嫁に来て45年ぐらいは飯は炊いとうと。

お袋さんは嫁さんがきた時点で、飯炊きは卒業したと。

ずっと嫁さんも定年で、もういい年なんです。

ですから。

そしたら、あちこ(?)元気かって、私のほうがひょっとしたら先に行くのではと心配をするんです。

確かに、考えると、そういうふうなきらいがなかではなかったです。

女性特有のある年齢になったら、ちょっと具合が悪くなったりしますが、そのときに、お袋がうちのほうが先に行くのではと本当に思ったこともありました。

そういう中で、今はなにもないですが、その中で市長の言われる健康寿命というて、では健康寿命を保つには何をしたらいいか、どういうふうなやり方をしたらいいのかということで、考えたんです。

考えたときに、市長は自分の在任中に1歳の健康寿命を延ばすと言いながら、市長はたばこを吸う。

酒腹一杯飲む。

そういうふうな市長が健康寿命を延ばしたいと言う意図がわからないのですが、その辺についていかがですか。

議長／小松市長

小松市長／山口議員も、60歳ぐらいになるまで1日2箱吸っていた、3箱吸っていて、このようにお元氣だというふうに思っていますが、確かに、おっしゃるとおりです。

私も飲酒、あと喫煙、そういった辺りはいたします。

就任以降、健康寿命の話をあちこちでさせていただきました。

やっぱりその中である確か、婦人会だったと思いますが、健康寿命大事ですよ、というふうに私申し上げていましたが、風邪を引いて咳こんでいたんです。

全然市長説得力ないのでは、というふうに言われたことがあります。

確かにそうだなと。

私も健康寿命、健康寿命というと、自己暗示にかかってくるというか、やっぱり意識づけができてきて、就任以来、お酒の量はぐっと減りました。

タバコの量もかなり減りました。

やはり日々の意識づけが大事だなというふうに思っていますので、私の健康のためにもぜひ、その健康寿命というのは引き続き、皆さんにお伝えしていきたいと思っています。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／やっぱり、言うのであれば、自分で率先して努力をすると。

そのことは総務課長と話をする機会があって、いろいろ話をしていた。

それはやっぱりいかんだろうと、私も注意しますよと。

私もたばこもするけど、健康のために、今から考えて、お父さん以上に長生きをしたいなというような言い方をしていたので、市長も、やっぱりその武雄市を担っていく政治家でありますので、健康には十分に留意して、副市長も飲み過ぎて、ああいうふうになられましたので、そういうふうなところは十分に気をつけていただいて、5万人の武雄市民が皆さん方の手にかかっているのですから、その辺は十二分に気をつけてやっていただきたいと思っております。

次にいきます。

財政部にお尋ねをしたいんですが、合併当時と現在の財政の状況の違いをまずお尋ねをしたいと思います。

議長／北川政策部長

北川政策部長／おはようございます。

合併当時と現在の財政状況ですが、合併当時の平成18年、17年の決算で見ますと、また現在ということでは平成25年の決算と比較をしたいと思います。

1つは財政力指数ですが、これは基準財政収入額を基準財政需要額で割った数値です。

公共団体の財政力を示す資料として用いられているものですが、合併当時は平成11年決算ですが0.44でした。

平成25年決算では、0.47ということにして、その間最大値には0.51と。

平成20年にはもちなおしたという時期もありました。

もう1つ、地方債の残高です。

これは合併当時は普通会計であげますと、219億7500万が、25年当時では176億8500万ほど。マイナス42億の地方債の減です。

なお、全会計で見ますと、平成17年決算では、408億6500万ございましたが、25年度では、320億8500万で、87億8000万ほどの減となっております。

基金の残高でございますが財政調整基金と、公共施設整備基金、この2つを見ますと、合併当時、合計で33億7500万でしたが、25年決算で73億600万ほど、ということで39億3000万ほどの増加でございます。

数字的にはそういう状況でございますが、合併後、合併支援措置の終了を見すえて、事業見直しによる歳出抑制、人件費の抑制、遊休地の処分等で財源の確保を図ってきたところで、その数字が今申し述べた数字ではないかと考えております。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／本来ならば、財政と企画と分けて、話をしたいと、一般質問したいと考えておりましたが、どうも事前審査にかかりそうなので、なかなか質問の仕方が難かしゅうございまして、今その部長答弁がありましたけれども、今、答弁のなかで、基金残高についてお尋ねしますが、基金残高が、増えて、73億あるとのことですが、特別会計が、例えば水道とか、競輪とか特別会計に入っているわけですね、そういう中で、特別会計等々を含んだもので、残高がどれくらい。

あるいはその地方債の残高がどれくらいというのは、基金残高と地方債の残高はわかるんですかね。

わかりますか。

わからんそうです。

例えば、競輪、とりあえず今回、競輪場の改修をされますけど、競輪場改修が約17億くらいの予算立てがされていますよね。

その半分、だいたい基金が17億くらいあるんでしょ、それ近くが。

そういう中で、半分近くが、一般会計、あるいは、水道会計から借りていくと聞き及んでいますし、水道会計は水道会計で、17億くらいの基金をもっていると武雄市まだまだ、基金を持っています。

旧武雄町、水道が、政治ではどこにどがんとあるかくらいの、古い水道もあると思いますので、そういうふうな基金の中で、前市長が言った、百数十億の基金残高になるというのが、その辺の根拠じゃないかと思いますが、市長いかがでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／そうですね、前市長が財政健全をしたと100億というふうに言っていたのは、これは地方残高の減と、基金の増を合わせた財政効果ということと言っていたということで、記憶しております。

おっしゃる通り、最後にご質問された部分も財政的な面では考慮されるべきところだと思っております。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／ということはですよ、きのう11番議員の質問の中で、市長って、あなたやるだけ、これやるよと言ってくださいよっていう話が一般質問の中でありよったですね。では、その合併した当時の起債残高をあるいは、基金残高を考慮したときにですね、やるときは、やらんと、使うべきところには、ちゃんと必要な部分については使わんと、市長は、いや、考えてますよと。

大体、議会用語、要するに、国で言う「検討します」、市長よく使われますよね。
検討します言葉は、検討をするだけで、しませんというのが通常の言葉だそうなので、
注意して、答弁していただかないと市長、検討するだけで、あとなんもせんとかという懸
念があるわけですね。
そういう中で、これだけの金があって、それは、溜めて皆さん方に負担をのこさんように
するのが、正統でしょうけど、いるべきところには使う。
そういうような気持ちは、市長いかがでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／やはり、めりはりが大事だと思っております。
締めるときは締めますが、一方で投資するときは、大胆に投資するということが私も必要
だと、自治体経営とおっしゃっていますが、まさにそれが経営じゃないかと思っております。
ちょうど、無印良品の会長の本を2日くらい前に読んでいたんですが、無印良品とい
うのは経営がかなり悪化したというときに、その会長さんが社長になってやったことが、
かなりのお金を投資して、自動発注システムとかそういうものを導入した、それによって
V字回復をしたと勉強になりました。
投資するときには、投資するべきするときは投資する、これも武雄の未来のためにと考え
ております。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／市長、やるときには、声がひっくり返るくらい、やるやーとこういう気持ち
でやってください。
淡々と言うと、本当に小松市長やるんだろうと、テレビを見られる方も、恐らく、大丈夫
だろうかという気にならんともかぎらんですから、やるときはやるよと、力強く言っとい
てください。
なんでこういうふうなことを出したかというのですね、約88億の起債残高で減らしたと。
それは、基金としては40億ぐらい増やしたと、その差、120億それが、目に見えんことかわ
からんが、それだけの努力をやったということで、前市長だって、100の内、3つしか成功
していない。
本当は。
そんなもんなんです。
ところが、100のうち3つ成功して、日本に、佐賀県に武雄はここにありと示されたんです
から。

100のうち100成功するのは、それは嘘。

だから、市長もそういうふうな気概をもって、今後やっていかないと、武雄市は今のまま
でいったら、恐らく、元の木阿弥(もくあみ)というか、もとのままになってしまう。

今までやったのはなんなのかといわれるのは、首長なんです。

その辺を心に、肝に銘じて今後やっていただきたいなと思っております。

この間、牟田議員の質問の中で、補助事業。

補助事業をこうやって見て、補助事業の中には、その金、出所(でどころ)がどこなのかと
話があったでしょう。

これは、要するに企画の話です。

補助事業をおそらく、何百、何千という補助事業の中から調べたら出てくるはずです。

最低でも50%の補助金が恐らくできるだろうと。

それは、私は企画部の仕事だとずっと言っている。

そして、あなたたちは、職員の皆さん方は、暮らし部を含めて、未来部ですか、企画部で
すか。

いろんな教育部ですか。

いろいろなこと全てを網羅したうえで、横のつながりを持ちなさいと。

私今までいってきた。

その結果が、今回の機構改革に入ってるじゃないですか。

皆さん方が言われたことをしていないからこういうふうなことになるわけですよ。

違いますか。

そういうふうなことを、含めてちゃんと協議をせんことには、皆さん方の考えを、今から、
改めてでも武雄市の発展のために頑張っていたきたいというのを、思っております。

答弁はいりません。

自分たちの委員会でしっかりやっていただきたい。

そのまえにいいですか。

議長／山口議員。

2人のはひかえてください。

宮本議員、あなたの声は私に聞こえています。

事前審査にありません、事前審査にあたったら私が止めます。

あなたから言われなくても。

質問を続けてください。

山口昌宏議員／ということで、今から、たて、横のつながりを考えて、頑張っていたき
たい。

次にいきます。

次は観光。

これは、見よったら、豊村議員が、このあと質問の中で、保養村のことでやりたいですが。なんで保養村かという、それこそずっと前から、保養村に何だ恨みがあーや(?)と、毎回毎回ずっと保養村の質問をしてきたわけです。

約40億かけて、保養村整備計画1次から2次、3次とやってきたが、そういうふうな中で、肝心要(かなめ)のところはどういうことになっているかという話をしたときに、第3次保養村整備計画が出たけれども、私が言ったことは、議事録開いてみればわかると思いますが、あなたたちは、1次2次のときに一般質問で言ったことをここに書いてありますよね。私はそのときで、1次2次でやりなさいと言ったことを、あなたたちがしてなくて、ただ書いてだけです、と言ったこともある。

それで、担当課として、これを保養村の整備計画の3次のときに、書いておられますが、その辺について、3次でどのくらいのことをされたのか、お尋ねしたいと思います。

議長／井上営業部長

井上営業部長／おはようございます。

モニターのほう、よろしくお願いいたします。

議員ご指摘の、第3次の保養村の計画ですが、平成17年から平成26年度までの、10年間で、第3次の中に、大きく掲げてますが、ここに画像をあげていますが、全体としての7つのゾーンということで、保養村を7つの目的に沿ったゾーンに色分けをしています。ここで皆さま方、特に議員さんのご意見も頂戴したと思いますが、こういった形でゾーンを分けています。

これまでなにをしたかという、平成19年に議会のおりに、当時市長の方が、ご質問に対してお答えしてますが、例えば、新たな予算をかけて、ハードを整備するというよりも、現在あるものを利用するという形で、ソフトを中心にやっていくという形で答弁しました。それにのっとりまして、これまでは、保養村をどのように使っていただくかということで、サービスの向上について地元の協力会の皆さんと協力をいただきながら進めていまして、そういった意味では、ハードよりもソフトを中心にということです。

昨今、韓国を中心としたオルレのほうの推進にあたりまして、平成24年度にオルレコースの山岳の遊歩道を整備するというところであります。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／うちのこため池ですか。

これは、池ノ上ため池やったのかな、名称は。

うちのこ、うちのこため池、周辺部の整備を含めてされたということですよ。

3次のときに。

あれは2次のときに、くるっとまわれないで***。

あそこは上のところは、モクでしてあるので、十二分に整備等々は、点検をしていただかないと、もし何かあったときは、大変なことになると思いますので、その辺の補修等々もよろしく願いをして、あとは豊村君に任せたいと思います。

次の、3番目の教育部の皆さん、すみませんでした。

興奮はしてないが、めくり間違っ、先いきましたので、戻って教育部にお尋ねをします。

図書館開園からこの間170万人という話があったが、170万人って、一口には言いますが、たかが、図書館、されど図書館というふうに、いまだに衰えることを知らず、毎日、毎日、よくおいでいただいて、感謝、ただ感謝しておりますという気持ちなんです。

でも、それでも、やっぱり、何もないじゃないですよ。

たとえば、駐車場が狭かった。

あるいは、キッズがもう少しどうかしてもらいたい、あるいは、ほかの何かをどうにかしてほしいということで、その中で、今後の図書館のあり方も、ずっと検証をしながらしていかなければいけないと思うわけです。

そこで今後の検証の仕方としてどのような考えをお持ちなのかをお尋ねします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／お話にありましたように、2年で170万人。

だいたい55%が市内の方ですが、本当に県内外からおいでいただいていると。

ですから、検証のする内容としまして、図書館として、魅力ある図書館、その魅力で来ていただいている図書館としての検証と、直接私たちができるできないもありますが、それだけの方に来ていただく上での、来館者を含めた検証、先ほどありましたように、そこには駐車場であったり、問題があるわけですけど、利用者にとっての検証は当然ですけども、そういう来館者含めた来館者についての検証、運営上の検証というのが、今後なお、続いていくということです。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／市長にお尋ねしますが、市長就任時、新聞でキッズのことについて、載りました。

報道がなされましたけど、あのときに明くる日に、新聞に載った次の日、議員の皆さんは、あおないしろない(?)して、なんやこれとは。

そがんなことは誰も聞いていないということで、けんけんがくがくありましたが、市長はあのときに、どういうふうな思いで言われたのか、そのときにどういうふうな思いで言わ

れたかを、いっていただければ、市長は今後の図書館のあり方として、どのように考えておられるのか、その辺についてお尋ねをしたいと思います。

議長／小松市長

小松市長／そうですね、あのときは新聞に、児童図書館新築せずと、見出しが載りました。当時は、私はいろいろな選択肢があるということで、申し上げたわけでして、新築せず、ということで断言はしておりません。

この場で改めて申し上げたいと思っています。

その上で今後の図書館のあり方ですが、先ほど、議員もおっしゃったように、現在図書館を見ると、いくつか課題があると。

例えば図書館の、駐車場が狭いとか、キッズスペースが少ないとか。

そういったご要望を多くいただいているところであります。

そこで私も一利用者として、いろいろと利用しております。

気付いた点を含めて、特に、母親の方、父親の方と話すと、ぜひキッズスペースを広げてくれという声が非常に多いということに私この地域回りをした中で、そういう声をいただきました。

改めて当初、キッズライブラリの話だったんですが、キッズライブラリから少し私は視野を広げてみて、私がしたい子育て支援、教育、そういったことを踏まえて、幅広く考えてみたところです。

よく言われるのは、子どもと一緒に時間を過ごすような、そういった場をもっと増やしてほしいというふうにそういう声を非常にいただいています。

例えば、長くなりますが、例えばあるお母さんは言っていたのが、私たちはサラリーマンだと。

休みは土曜日か日曜日。

家族でござせるのは、どちらかの1日だというようなときにせっかくだからそこを充実した時間を過ごしたい。

いろいろ公園あるじゃないですかと言ったところ、公園は実は雨降ったら行けないですね。

あといわれたのは、実は夏はものすごく暑いし、子どもがそこは体が心配だというような声ももらいました。

結局商業施設に行き、そして、図書館にも行くんですが、そういったところしかないというような話をかなりいただいたところです。

あとは楽しく学べる場があればいい。

人によってキッズニアというようなもの、というような話でしたが、それは家族で楽しく、しかも学べる場というのがこの周辺にはない、そういう声をたくさんいただきました。

長くなりましたが、いろいろ私もこの期間ずっと考えておまして、ぜひ、ここは図書館周辺にキッズライブラリーをさらに発展させた、仮称ですが、子育てセンターをぜひつくりたいというふうに思っています。

図書館の側に、ということとはとりもなおさず、図書館の相乗効果を期待してのものであります。

これはあくまでイメージ。

外国の建物ですが、例えばこういうところで、子どもと親子で一緒に学べる。

そして例えば、母親が図書館に行ってる間に父親と子どもは、こちらで遊んだり、一緒に学んだりできる、そういった場をぜひつくりたいというふうに思っています。

ただ、今、適地があるかという点、検討には入っていません。

ぜひそういった適地の検討等も含めて、そこは教育部長、プロジェクトリーダーとしてぜひ今後実際の実現に向けた今調査を進めていきたいというふうに思っております。

子育てと教育、これは私が大事にしたいところで、まさに未就学児のころから、楽しく学べるというようなところ、そういった場を武雄において、これを子育て、教育の1つの私の柱としていきたいというふうに考えています。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／なんか、できたらいいなと思わず声がでるようなづくりが今映し出されていますけど、ここで先ほども言ってるようにもうやるのならやると、その今、プロジェクトで例えば教育部長をリーダーにということで、教育部長リーダーとして頑張っていただけですか。

頑張るそうなので、いずれにしてもやっぱり皆さん方のニーズに合ったづくりをしていただいて、本当に武雄市にいつもいっているように、生まれてよかった、育ってよかったというような環境づくりも含めて、市長が今、気合いを入れてやっていただきたいと思います。

では、次に行きます。

次は企業の立地のところですが、若木の工業団地はつくって20年かかって完売したんですよ。

では、今度の武雄北方インター工業団地はどうかというと、今まで2社来ていただいて、3社目の岩木さんの分は別として、2社は売れたと。

あと残りわずか、皆さん方、お手上げありませんかではないが、あと2.3ヘクタールくらい残っていますが、この2.3ヘクタールの今後の見通しというか、というのは、何を言いたいかというと、せっかくこういう今の景気の状態の中で、もしこれが完売ができて次の目的に向かっていけるようであれば、それこそやっぱり武雄市にとって会社なり、何かが来てくれることで人口減少をいくらかでも歯止めがかかればと願って、この質問をしたのですが、

工業団地の今後の見通しとしていかがなものでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／北方工業団地については平成23年の10月に約18ヘクタールで分譲が開始されて、現在、2.3ヘクタールが残っているところです。

ここまでいったのも、あらゆる多くの関係者の皆様のおかげだと思っていまして、この場を借りて、お礼を申し上げます。

残りの2.3ヘクタールですが、実はある企業から現在引き合いがかかっておりまして、最終段階にきております。

これについてはまた、しかるべき、相手さんのある話ですので、しかるべきタイミングがくれば、正式にご報告をさせていただきます。

もしこれが決まれば、ようやく完売となります。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／完売といっても、3年ちょいですよ。

景気も含めて、世の中の動向が、こういうふうになったからこそ、こういうふうになったのかなと思っていますが、もう一つ、お尋ねはもし、今引き合いがあつて、工業団地が売れたということになれば、例えば大同メタルさん、子会社さんとかが恐らくあると思うが、そういう中での引き合いはあっているのかどうか、その辺お尋ねしていいですか。

議長／千賀営業部理事

千賀営業部理事／おはようございます。

今、お問い合わせの大同メタルの子会社さん引き合いの件ですが、現在のところは具体的な引き合いはあっておりません。

以上であります。

議長／18番 山口昌宏議員

山口昌宏議員／いずれにしても、企業立地課さんを含めてですね、武雄の職員の皆さんが、それこそ、なんかの話ではないが、一丸となって頑張った結果がこの3年の中に現れたんじゃないかと思います。

そういう中で、もし子会社さんでも、来たいという話があればそれこそ企業立地課を中心に、トップセールスをしていただいて、その武雄市が人口の増はなかなか難しいかわから

ないが、減だけは、極力控えてもらえるように、企業を含めていろいろなかたちで、努力をしていただきたい。

われわれはこれで終わるかわからんけど、未来に残る子どもたちのために、福祉の維持向上等を含めて、頑張っていたきたいなということを願って一般質問を終わります。

議長／以上で、18番 山口昌宏議員の質問を終了させていただきます。

ここで、議事の都合上、5分程度休憩いたします。

＊ 休憩中 (9:43) ＊

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、9番 石橋議員の質問を許可いたします。

ご登壇を求めます。

9番 石橋議員

石橋議員／おはようございます。

ただいま、議長より登壇の許可をいただきましたので、石橋 敏伸の一般質問をさせていただきます。

昨夜、テレビでクローズアップ現代の番組の中で、伝統ある沢村エイジ投手の話があったようでありました。

昭和11年12月だったと思いますが、日本シリーズ、巨人対阪神の映像は、2分間でしかたけど、あのころ、約80年前のテープが、最初放映されたときには、あまりよく画面がわかりませんでした。今の技術で鮮明に、映しだされていました。

私もスポーツ野球大好きでありましたので、感動したところです。

そして、ファイトをもらってきょうの一般質問をさせていただきます。

消防行政について、先の3月議会で、松尾初秋議員の消防に対する質問がありましたので、かぶらないように質問をさせていただきます。

6月3日に梅雨入りをしました。

常襲水害地である武雄市において、水害等の災害がないよう祈る、一人でもありますが、3・11、東日本大震災以降、地域消防の存在と言いますか、組織と言いますか、また活動や役割の重要性が再認識されていると思います。

地域コミュニティにおいても、大切なものです。

年々気象状況や災害等の規模が拡大し、予期せぬ事態が起こりうる中、私自身も昔と言ったらおかしいですが、消防団在籍をしておりました。

当時から比べても、活動や役割が多岐にわたっています。

また、人口減少に伴い、若手の確保も難しい中、現在の地域との関わり合いを含め、消防団との活動と役割についてお尋ねをいたします。

議長／北川政策部長

北川政策部長／消防行政の中、消防団の役割をどう認識しているかとのことだと思います。大規模の災害の際には、各地域の実情に精通した地域住民で構成されている消防団については、地域に密着性、あるいは要員の増員力、即時対応力の面でも特に優れており、地域の安全安心を確保するためには、非常に欠かせない重大な役割と認識しております。

議長／9番 石橋議員

石橋議員／訓練等も含めてさまざまな活動をされている中で、今度、7月の5日に第6回の武雄市消防総合大会が実施されるようです、大型ポンプ等、あります。市長も出席されると思いますが、このような活動も含め消防に対する思いをお聞かせください。

議長／小松市長

小松市長／今度の総合大会に向けて、各町でそれこそ毎日、練習いただいていると。私も職員も消防に多く入っておりますし、まさに牟田議員も含めて、一番大事な、団長も、豊村議員もいろいろそこは日々、本当に訓練を。議会の皆さんもですね、すみません、私の言葉足らずで失礼しました。毎日懸命に練習をしている中で、心から敬意を示したいと思います。やはり消防団は、私は常々言っていますが、地域の安全の核であるというふうに思っております。何かあれば、すぐに地域のために出動する。そして日々の点検は欠かさない。そういった地域を思う姿勢、消防団は、武雄の宝であると、そして皆さまにはぜひ、武雄の安心安全のために、これからも何卒よろしくお願いしたいと思っております。

議長／9番 石橋議員

石橋議員／団員も、仕事を持ちながら、厳しい毎日の練習をされております。市長も経験されたことは、なかですね。消防団は、ないですね。

初めて見られる、初めてだと思しますので、言わせていただきますが、大会当日の完成された技術もですが、忙しい中に時間があれば、頑張っている練習も、市長も見ていただければ、団員も頑張るんじゃないかなろうかと思いますが、いかがでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／ぜひ総合大会は、私は、本当に楽しみにしておりますし、それまでにも、ぜひ、時間をつくって、その皆さまの練習の風景は見に行って、激励になるかどうかはあれですが、おつかれさまということで、ひと言、ぜひ声をかけたいと思います。

議長／9 番 石橋議員

石橋議員／団員も喜ぶと思います。

今回、さまざまな活動をしているなかで、出動手当に、違いがありますが、その歳出根拠がわかれば、お願いします。

議長／北川政策部長

北川政策部長／出動手当についての通告をいただいてませんので、答弁については持ち合わせておりません。

議長／9 番 石橋議員

石橋議員／私が言っていなかったのがいけませんが、少し、違いがあると思っております。火災や訓練等のときには、出動手当が若干違いますが、消防団の訓練とか、いろんな訓練のときに、前もっての事前の訓練とか、いろんな訓練あっている中で、なんで違うのかなと思っておりますが、それは後ほどまた、お尋ねします。

いろんな考えがありますが、消防団員もすべてに団服を着用して出動し、また、団服に市民の安心・安全を思い、強い信念のもと活動をされていると思っております。

今後団員の励みにつながるように、お考えをいただければと思います。

それでは、2 番目の、子育て支援についてですが、市長は子育て教育が政策の 1 丁目 1 番地とあると申されましたが、今回、先進的な組織改変として、議案にも挙げられておりますが、自身も子育て真っ最中である中、子育てに対する市長の考えと、武雄市における子育て支援はどのようなことをされているのか、お尋ねをいたします。

議長／小松市長

小松市長／この議会でも、私も申し上げておりますけれども、やはりこれからの地域創生にあたっては、子育ての支援、教育の充実が、私は鍵だというふうに思っております。

武雄市の場合は、教育、これについてはほかにも誇れる小学校、中学校教育を行っているというふうに認識してますし、子育て支援も他市にもひけには劣らぬ支援をしていると思っております。

その子育て、教育、それをさらに充実して高めることで、地域の暮らしやすさを高め、さらにそれをもって周りから人を呼ぶということを考えていきたいと思っております。

個別の子育て支援政策については、部長から答弁をさせます。

議長／諸岡こども部長

諸岡こども部長／おはようございます。

少子化対策を含めてですが、一番大事なことは、武雄市で産み、育てやすい環境をいかにつくっていくのか、これが1番大事なことはないのか。

そういった意味から、現在、子育て支援の充実というのを重要施策として取り組んでいるところでございます。

本年の4月からですが、子ども・子育ての新制度が始まりました。

この中では教育保育を中心とした充実を行うとともに、13の事業計画を盛り込みまして、さらなる充実をさせたいという考えです。

それから、母子***でございますけれども、この関係では、妊婦健診これが14回でございますけれども、これの助成、あるいは一人親家庭の支援。

あるいは、不妊治療ですが、こういうものへの支援、助成を行っております。

さらに平成24年度からですが、子どもの医療費の部分について、入院費、それから、26年度から通院費を中学生まで助成をすると、拡大をしたと。

こういう、もろもろの子育て支援に対する事業を進めているということです。

議長／9番 石橋議員

石橋議員／さまざまな支援を行ってもらっている中でですね、定住促進補助金、これも子ども一人当たり、10万円の助成があります。

また、先日の新聞報道等にも発表されましたが、出生率が下がってるなか、当然人口減少も進んでいきます。

そのようななかで、産み育てやすいまちづくりの施策の一環として、出生祝い金の復活はできないものかをお尋ねをいたします。

議長／諸岡こども部長

諸岡こども部長／ただいま、ご質問をいただきました、出生祝い金ですが、この制度につきましては、平成24年の9月まででしたが、1万円を支給をしていたということです。

ただ、この制度も事務事業、***検討する中で、やはり継続的な、あるいは長期的な支援策を考えていくべきではないかと。

こういうことから、子どもの医療費の充実策を選択してきている。

先ほど申し上げましたが、24年度からは、中学生までの入院費、それから26年度からは通院費までを拡充をしていきたいということであります。

現在、子どもの医療費のもので、拡充した分は、2300万程度の負担をしていることで、現在の段階では、出生祝い金の復活という考え方については、いたっていないということです。

議長／9番 石橋議員

石橋議員／いろんな、子どもに対する医療ですね、そういった面にまわしてというたらおかしいですが、使っているということですが、定住促進として、よそから来ていただいた、人口増につながる、定住促進事業であります、よそから来た人、中学3年生から以下、一人10万円ですよ。

そうした中、せっかく、武雄で産んでいただく、お母さん、お父さんたちが、そうしたことで、私の耳にきくときには、前、出生一時金というのがあったよなという言葉もあり、あるいはもうなかとやろうか、どがんとかよかとか、ちょっと子どもも減るんじゃないかなと。

先ほど、先日の3番議員の、第三子は1000万と極端は話ではあったかもしれませんが、その中で市長はもう一回考え直そうかのう、という答弁がありましたので、本当にそういった補助、助成がですね、あれば人口にいくらかにつながるのではなからうかと思いたすがいかがでしょうか。

議長／小松市長

静かに。

小松市長／これについては、先ほど、部長が答弁したとおり、継続的な支援が私も大事だと思っておりますので、ぜひそちらを、重視をさせていきたいと思っております。

議長／9番 石橋議員

石橋議員／先ほど、答弁にありましたように、医療費助成についても、経済的支援ということで、非常にありがたいことです。

負担の軽減とのことで、助かりますが、さらに踏み込んで見れば、今現在、一部申請をしてですが、一旦窓口で負担し、申請により助成という制度です。

きめ細かな制度であるためにも、またより一層の負担の軽減を考えればですね、窓口における現物支給への変更は考えられないものなのか、お尋ねをいたします。

議長／諸岡こども部長

諸岡こども部長／子どもの医療費の支払い方法でございますけれども、議員ご指摘のように就学前の方については現物給付という形をやっていますが、それ以後、中学生の分については償還払いと。

これはいったん、お支払をいいただいて、その分をお返しをするというこういうシステムで進めているところでございます。

この制度を現物給付ができるというのが、非常に望ましいというふうに考えていますが、県内の実情を申し上げますと、それぞれの市町において、それぞれの支給の方法についても違いがございます、なかなか統一ができないことから、償還払いの方法で現在の所は行かざるをえないというところですが、できるだけ早く現物給付になるというのが望ましいわけでございますので、これについては県のほうにもしっかりと、現物給付できるような要望を行っていきたいというふうに考えております。

議長／9番 石橋議員

石橋議員／いい方向にお願いしたいと思います。

本当に、窓口に来て、申請して、いったん、あとで振り込むということですので、今、答弁の中でありましたように、窓口でお支払いするように、なるだけ、やっていくということです。

ありがとうございます。

さまざまな問題ありましようが、1丁目、1番地の政策であります。

さまざまな機関や団体へ市長自ら率先して声をかけていただき、武雄市で産み育ててよかった、また子どもたちの笑顔が溢れるまちづくりにつながるようお願いをいたしまして、石橋敏伸の質問を終わります。

ありがとうございました。

議長／先ほど石橋議員の質問の中でですね、消防団員の出勤手当に関する件で通告があつていないので、資料がないということでございましたけれども、執行部から答弁の申出が

あっておりますので、これを許可いたしたいと思います。

北川政策部長

北川政策部長／先ほど消防団員の出動手当についてのご質問がありましたが、通告をいただいていないということで答えをしませんでしたが、議員が質問の途中で消防団員の出動手当に差があるのではないかと、というふうなニュアンスでお話をされましたが、この出動手当については、団員全て同一でございます、通常は1200円、災害時には危険を伴うということで1800円ということで災害の種類、あるいは団員の位(くらい)といたしますか、で違うということではないので、誤解なきようによろしく願いいたします。

議長／以上で、9番 石橋議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、5分程度休憩をいたします。

* 休憩中(10:11) *

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、1番 豊村議員の質問を許可いたします。

ご登壇を求めます。

1番 豊村議員

豊村議員／おはようございます。

議長より登壇の許可をいただきましたので、1番 豊村貴司、一般質問をはじめさせていただきます。

振り返れば、大変緊張した昨年6月、初めての一般質問でした。

きのうのこのように思い出されますが、あれから1年が経ち、この1年経験したこと、またいただいた多くのご指導、それが、これからの1年にしっかり生かしていけるよう務めていきます、よろしくお願いいたします。

今回はスライドにもありますように、3つの項目について質問を行います。

時間も限られていますので、早速質問に入らせていただきます。

市長は今議会において、子育て支援、教育の充実に務めるということを繰り返し言われていました。

今年4月からは首長と教育委員会が同じテーブルで、教育について話し合う場、そして総合教育会議が始まりました。

文科省の出している資料によると、首長と教育委員会が教育行政の大綱や、総合教育会議は、重点的に講ずべき施策等について、協議調整を行う場であり、両者が教育政策の方向

性を共有し、一致して執行にあたることが期待されるとあります。

武雄市においては、この総合教育会議において、名称を子ども教育会議とし、開催頻度もほかの自治体と違って、武雄市は毎月開催するようになっています。

このように総合教育会議について、武雄市はある意味独自の特色を持って取り組まれるようになったわけですが、そういった独自の部分を含め、武雄市として、この子ども教育会議にどのような狙いを持たれているのか、この点についてまず答弁をお願いします。

議長／小松市長

小松市長／まずは、国から設置を、各自治体に言われた、総合教育会議。

これは、私はやはりこども施策、教育こども施策を、もう一度子ども目線で見直す必要があるだろうということで、名称を先ほどおっしゃられたとおり、子ども教育会議をいうことで変えたところであります。

月1回の開催でぜひ実効性のある会議にしたいというふうに考えています。

単なる意見の言いつばなしではなく、少なくともその中で、話を整理しそして、できるものについては方向性をその中で定めていくということで、従来先ほど申した、言いつ放しで、ありがとうございました、という会議にはしたくないというふうに考えています。

最後ですが、特にこれまで教育については教育委員会がありまして、そこで議論をしていましたが、もはや武雄市こども部と教育部というふうにあって、こども施策、教育施策、これはやはり一貫して行うべきだろうというふうに考えておりまして、そういった横断的な施策を話し合う場ということで、教育委員会とはまた別の場として私たちは位置づけています。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／戻りますが、先日、画像に出しているのは5月に行われました、第2回のこども教育会議の様子です。

私も傍聴させていただきました。

率直な私の感想ですが、当日、首長ということで市長のほうに議長を務められて、教育委員さんの意見に対して、その意見を書き留められたり、皆さんの意見をまとめたり、という形で、市長自身も動きというか、立場は大変だと思いました。

ある意味、私思ったのは、例えば、進行役を誰かほかの方に設定して、市長の立場で、首長と教育委員会が向き合う場となったので、より市長の立場としての議論が出せるような形での運営というのがあってもいいのかなと、このときに思いました。

4月、5月とこれまで2回、行われていますが、そういった運営等についても、何か思い、感じたことがあれば答弁をお願いします。

議長／小松市長

小松市長／先日の議会でも山口議員のときにお答えしたんですけれども、初めての会議でして、手探りでやっている状況であります。

前は私が座長ということでいろいろ皆さんからでた意見を、1時間、1時間半中でまとめるのが正直精一杯だったというのがあります。

これについては、私も終わって、このままだとまずいというふうに思いましたので、次回の6月のときには、私もしっかりと意見を述べて、大きく方向性をつくっていけるように、運営体制を変えていきたい、そのように考えています。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／初回のこども教育会議の中で、議事録がホームページに載っていますが、そこで市長の意見として、教育大綱の作成は、最終的に首長の責任でつくることになるが、武雄市はどういう子どもを育てたいのか、骨太の基本的な部分を本会議で議論して、大綱に反映させたいとありました。

改めて、武雄市におけるこども教育会議の今後の予定、スケジュール等をふくめて、また教育大綱の策定について、どのように進んでいくのか、答弁をお願いします。

議長／小松市長

小松市長／月1回の開催、大綱は秋ごろ策定を予定しています。

ほかの自治体では、優劣はないんですけど、ほかの自治体であれば、そういう教育の計画から抜粋して大綱をつくるとか、細かく事業が書いてあるとか、そういった大綱も見受けられますけれども、私は、武雄の子どもたちをどのように育てたいのかという、この1点をシンプルに、市民の皆さんにも読んでいただければ、すぐわかるような形で、シンプルに薄く、明確に大綱をつくっていきたいと思っております。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／そうですね、市長自身、子育て支援、教育の充実に努めると言われていますので、こども教育会議もよりよい運営が成されて、大綱にしっかり反映されるような形になっていけばというふうに思っておりますので、今後についても、期待をしております。

次の項目へ移ります。

次は、介護予防事業についてです。

先の3月議会でも、町ではなく、地区での介護予防についてうかがいました。

そのとき市長は答弁で、専門的なのは、地区単位にでなく、町単位がいいかなと思います
が、誰でも参加できる、いわゆる健康づくり予防は地区単位が基本で進めていくべきじゃ
ないかと考えていますとありました。

武雄市でも、町単位として、たっしやか教室として、35名の募集で、介護予防教室が開催
されています。

介護予防の専門の指導員が、講師として月2回、計16回、1年間教室が行われています。

市長の3月の答弁にもありましたように、誰でも参加ができる、私も思います、歩いて行
ける、より気軽に参加できるとなれば、やっぱり、その方が住んでる地区での開催、地区
の公民館等での開催じゃないかなと思います。

昨年秋から私も永島地区のほうで、介護予防教室を月2回させていただいていますが、あ
りがたいことに、ほかの地区の方からも、私の地区でも開催したいという声を複数いただ
いております。

ただ、私はなかなか動くのは厳しい部分もありますので、元々の狙いがいろんな所に広が
っていけばいいなと思って、モデル的にもやろうというようなところでしたので、このほ
かの地区でも開催したいという声を受けるという意味でも、広げていくという意味でも一
つ提案をしたいと思います。

市としての、今後の介護予防事業の展開はということで、言います。

提案としては、例えば、こういうふうに、専門の講師に来ていただいて、月に1回程度、
地区の公民館で介護予防教室をしたいと思います。

ただし、その地区がどんどん増えていけば、講師の動ける範囲も限られていますので、運
営も難しくなるので、将来的には自分たちで行う。

例えばサロンの中に、活動を組み入れて自主的に運営できるようにつなげていけるように。
最初1年間は、専門の方、例えば、理学療法士とか、健康運動指導士、健康運動実践市道
とかありますg、あそういう方たちに依頼をするということもあります。

今ですね、いろいろな地区で学校と自治体が連携して、介護予防に取り組むことがありま
す。

武雄市も、リハビリの学校があつたり、看護学校があります。

私が思うのが、学生さんがそういった形で地域に入れて、そういった体験をしたら、学生
さん自身も、卒業してから必ずメリットがある。

その経験が生かされる部分が出てくると思います。

もちろん、経験することによって受ける自治体としても、そういう形で指導員してくれる
ことになるから、メリットがあります。

そういった形で、学校と連携を組んで、例えば、学校に限らないですが、その広く、介護
予防を展開すると、そういうことについて提案をしたいと思いますが、どのようにお考え
でしょうか、答弁願います。

議長／小松市長

小松市長／今現在、介護予防事業でいうと、たっしやか教室、これは各町の公民館で、実施をしております。

私、前回の議会でも、申し上げたとおり、やはりそういった介護予防、体操教室などは、各町の公民館より、自治公民館で、まさに歩いて行ける範囲で実施をするのが、ふさわしいと思います。

さらに合わせて言いますと、豊村議員おっしゃるとおり、ゆくゆきは自治的な運営が必要だと思っております。

永島元気隊もはじめ、われわれも、市内、数箇所モデル的に事業を行って、今後どうやって、自主的な運営につなげていくかというのは、数箇所選んだモデル事業を今年度秋以降に実施をしていきたいと思っております。

リハビリテーション学校などとの連携については、いいアイデアだというふうに思います。学校側にとっても、生徒の指導というか、教育の充実という点でも、学校側にもメリットがありますし、生徒側にもメリットがある、運営側にも、専門家のような方が来ていただけるということでメリットがあると。

市にとってみると、それがきっかけで、ひょっとしたら武雄にずっと住もうと思ってもらえる、きっかけとなるということで、それぞれメリットがあるというふうに思っております。

ぜひ、ここはモデル事業もやる中で、依頼をして、組んでいきたい、そのように考えています。

議長／1 番 豊村議員

豊村議員／モデル事業の展開ということと、学校との連携について、動いていきたいという答弁がありました。

ぜひ、その展開のときには私も様子を見させていただいて、関わらせていただいて、一緒に取り組んでいけたらと思うので、よろしくお願いします。

次に、認知症予防について、伺います。

これまでに、認知症の形、出ております。

65歳以上の4人に1人が、認知症とその予備軍というデータが厚労省からだされています。武雄市もその条件は一緒だと思います。

武雄市においても、認知症予防サポーター養成講座の開催が行われており。

先月5月からは、永島において、これ画像ですけど、永島地区で、認知症予防をはじめとした音楽療法、ずんどこ教室が始まりました。

認知症については、個々人が予防に努めることが重要ですが、周囲の方、地域の方がしっかりささえていくのが、大事になります。

そこで、例えば、ずんどこ教室の展開もそうですが、市として、この認知症予防についての取り組み、今後どのようにするか、お伺いします。

議長／小松市長

小松市長／認知症予防については、先ほどおっしゃったとおり、音楽教室、ずんどこ教室。あとは、ずんどこってなんでそんな名前がついたのかと思いますが、ずんどこ教室、あとは、脳の健康教室というのを今年度、モデル的に実施する予定。

実証を踏まえて、私としては、やはり、各町の公民館で、その検証を踏まえて順次実施をしていきたいと考えております。

議長／平川くらし部長

平川くらし部長／認知症の今後の、地域での予防について、市長のほうからご答弁ありました。

もう一つあるのは、認知症について議員からご説明ございました。

サポーター養成講座、こういったこともこれまでやっておりますが、認知症対策については、大きく2つの柱を考えてます。

もう一つありますのは、認知症の相談というのが、もう一つの大きな柱としてあります。これにつきましては、29年度までに、認知症の初期の集中支援チーム、こちらのほうのチームを設置の予定を進めてます。

これにつきましては専門の医師、保健師、介護職、こうした職種の方々と構成しまして、ご本人さん、ご家族の方からのご相談に応じる体制をとりたい。

これに先立ちまして、今年度から、地域包括支援センターの中に、保健師が認知症介護予防推進資格をすでに取得しておりまして、すでに今年度から、ご家族の方あるいはご本人様のご相談にも応じる体制を整えているところでございます。

そして、先ほどご紹介いただきました、サポーター事業、市民の皆さんにも認知症について、知っていただきたいという事業で進めてきております。

これも引き続き、きちっと講座については、引き続きやらせていただきたいと、このように考えております。

議長／1 番 豊村議員

豊村議員／専門の方も入ったりして、具体的にこれから進んでいくんだと見えました。

ズンドコ教室は、ズンドコの「ず」はリズムのズでした。

あとは覚えていません。

健康課のヒラカワ(?)さんが一生懸命考えておられました。

介護の分野では、介護中のマイナス会計等もありまして、事業者の方から、それに対しての影響も伺っております。

将来的に、自治体としては、地域包括ケアシステムの構築って部分があります。

各事業者の方も、今後、市がどのように動くのか、注視をされています。

地域の中で、いろんな事業者があります。

そういった各事業者についてもですね、また今度地域ケア会議が、他職種の方で始まったということも聞いています。

今までケアマネージャーさんだけでしたが、いろんな職種がはいって、始まったということで、そこでやはり、しっかり現場の声を伺いながら、地域の課題について、取り組んでいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次に、行きたいと思います。

次は、地域活性についてです。

まずその中で、保養村について、伺います。

スライドに出していますのは、今年の春に行われました武雄温泉大駅伝、ホームページに載っていたPRのポスターだったと思います。

その駅伝、私も見に行きました。

すごく、いろんな色のユニフォームを着た人たちがたくさんいらっしやって、地域の方も、沿道で手をたたいて応援されたり、非常にいい大会だったと思っております。

今回初めて、大会が保養村のほうで開会されたが、改めまして、総括としまして、この大会のきっかけ、また当日にいたる準備とか、経過、それと当日の参加者数とか、また、例えば、この駅伝に関して宿泊があったとかというのがあれば、そういった数についても、伺いたいと思います。

またあわせて、やはり来年も実施していただければというふうに、地域の方もそういうふうに願っております。

そこで、来年度の予定についても、現段階で、わかっている部分があれば、そこについてもあわせて答弁願います。

議長／井上営業部長

井上営業部長／お答えをさせていただきます。

モニターをお願いいたします。

まず、開催にあたりましたきっかけでございますが、主催者であります西日本新聞のスポーツ新聞ですが、こちらの創刊60周年、及びテレ九の開局24年を記念しまして、これまで

福岡ドームで行ってありましたリレーマラソンでございますが、これを屋外でということで、お話をいただきました。

市内で候補地を検討する中で、保養村での開催に至ったという状況でございます。

たくさんの方がお見えになって、選手が151チームで、選手だけでも859名の参加をみていて、会場には、1500名の皆さんがお見えになったという状況。

このように会場となりました、駐車場でございます。

地元の永島区を中心に、歓迎の横断幕等で歓迎していただき、激励等の看板を作成、沿道にはたくさんの方が出て、選手にエールをおくっていただいた。

こちらは特産でありますイノシシをふるまいまして、婦人会の皆さんにも協力いただいたという状況です。

レモングラスの特産品もPRさせていただきました。

さて、今回につきまして、市内でのリレーマラソン、大駅伝にきまして、初めてですが、たくさんの評価をいただきました。

特に成果としては、宿泊の質問がありましたが、当然、スタッフが何泊も泊まっていますので、スタッフは当然宿泊をしていますし。

選手も皆さん方も、遠くからお見えいただきました。

中には海外からもお見えしましたので、宿泊された。

参加賞に、入浴券をお渡ししまして、武雄温泉のよさも味わっていただいたので、そういった面では成果があったと思います。

さらに地元のおもてなしとして、6店舗が出ておりまして、それぞれ特徴のあるおもてなしをしていただいたという状況でございます。

来年度以降ですが、今回は今年の4月4日土曜日に開催をして、終わった後に、すぐに主催者にすぐに来年も開催をしてほしいと要望しています。

来年の開催にあたっての課題としては、やはり、今年は859名の参加でしたが、より多くの皆さんにご参加いただくことです。

若干今年については、PRの期間が短かったので、できるだけ早めにPRをして、よりまた選手の皆さんのおもてなしを向上させてということで、より多くの方にきていただきたいと思っております、引き続き、来年、次回開催に当たって、お願いしていきたいというふうに考えております。

議長／小松市長

小松市長／これについて、先ほど、部長から答弁ありましたとおり、終了後、私も西日本新聞社と、テレ九のほうに、要望に行ってきました。

ぜひ実現に向けて、積極的にトップセールスをしたいと思っております。

あと、付け加えですが、外からの集客、これも大事です。

加えて、観光課だけではなくて、例えば、婚活とかにも使えるのではないかというふうに私思っております。

私が出たりレーマラソンにも、男女ペアで、いかにも婚活だろというような人も仲良くなっていたので、例えば婚活とか、市民の健康づくりとか、一石二鳥じゃなくて、一石三鳥にも、四鳥にもなるように、これは全力を挙げて誘致をしますし、実現すれば、庁内横断的に対応したいと思っております。

議長／1 番 豊村議員

豊村議員／市長が今言われました、婚活というアイデア、なるほどなと思いました。

いろいろなアイデアを持って、よりよい、魅力ある大会になるようにと思います。

部長のほうからもありましたように、PRという部分で、やはりその声は私も多く伺いました。

いろいろ、準備をしたりとか、こういうのもあるらしいというので、どういうふうに動けば、例えば、ボランティアとして動けばといいのかというときに、なかなか組織体制というか、そこが明確じゃないようにありましたので、来年は例えば、市のほうでも、有田のほうはレーマラソン実行委員会という形でパンフレットにも書いてあったので見たのですが、明確な組織体制があってその中できちんとお互いが共通認識で動けるように取り組んでいただければと思うので、よろしくお願いいたします。

また、来年。

宇宙科学館が工事中ということで、前が使えたということですが、法律的とかいろいろ課題もあると思いますが、ぜひとも、開催につながるように、よろしくお願いします。

スライドを戻してもらってもいいでしょうか。

その保養村についてですが、私まだ議員となって1年で、まだまだ経験は少ないですが、その中で地域の方とかその運営に携わられている方たちと今まで意見交換を進めてきました。

ただ、皆さん、やはり保養村の活性については願っています。

実際にのぼるくんが廃止になったということもある。

どういうふうに保養村は今後、どうなるか、例えばこういったことをしたらどうかとか、アイデアをいろんなところ出てきたりとかもあった。

私もその活性につながるような形で取り組んできたのですが、実際なかなかその皆さんの思いとか、アイデアを形に結びつけるのが私の力不足もあって、この1年、難しかったなと感じました。

そこを踏まえて、これからの運営で方法として、切り口を変えてやっていくことが大事だと思うので、保養村の活性についていろんなアイデアがあった中で、協議のルールの上に乗せて、目標を決めてこういう形でやっていこうということで、具体的に進めるという形

で、取り組み方自身を変えていくことが必要かと、その点観光課さんとか、協力会さんとか、地域の方もその点について、意見交換をさせていただきました。

市長も、保養村についてはこの大駅伝のあとのブログで、第二の大濠公園となるポテンシャルがあると書かれていたり、部長のほうも保養村協会の総会のほうで今後の保養村の取り組みについて、お話をさせていただきました。

改めて、この保養村について、今後、どのように市として考えていかれるか、その点について、答弁をお願いします。

議長／小松市長

小松市長／私が第二の大濠公園にと申したのは、確か大駅伝のときだったと思います。

ランナーの皆さんが楽しそうに走っているのを見て、これは福岡市、中央区にある大濠公園と、姿がだぶったということで、1つのアイデアとして申しました。

ご存知のように大濠公園はジョギングしている人、ウォーキングをしている人、鉄棒にぶら下がっている人、あとスタバもありますので、ベビーカーをママたちがひきながら、スタバでコーヒーを飲んで、ゆっくりしていたり、老若男女が健康づくりとか、リラックスしながら過ごしているという公園であります。

今回、保養村を改めてみますと、池ノ内湖が1周2kmであると、私も職員時代、週に1回池ノ内湖でジョギングをしておりました。

健康寿命を延ばしたいということで。

非常に走りやすいというところがありますし、ウォーキングしている人もいました。

温泉も近くにありますので、そこで着替えて走って、お風呂に入るのも今の状況はすごく魅力的だと思いましたし、あとバーベキュースペースもある、宇宙科学館もリニューアルすると。

大濠公園と同じように、健康づくり、要はヘルス、あとスポーツ、あと親子のレジャー、そういった施設として大規模に整備をしなくても現状を活用することで魅力を上げられるのではとそのように考えています。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／今、市長からお話いただきました。

担当さんのほうから、この点についてこの後の計画について、答弁ないでしょうか。

議長／井上営業部長

静かに。

井上営業部長／すいません、順番を間違えました。

市長の思いをおっしゃっていただきましたので、その市長の思いを含めて、具体的に、どういうふうにするか。

私どもとしては認識したいと思います。

したがって大濠公園のイメージは普段から、市民の皆さんがいろんな形で老若男女使っていただく、特に子ども連れの方が安心して使っていただくということもありますので、そういった意味で、先ほど山口昌宏議員さんに、今、ご答弁させていただきましたが、このゾーニングに沿って、どのように使っていただいたほうがいいのか、そのための具体的に市として、どのように使い方というか、このゾーニングについて、考えを持っているということをご提示させていただいて、保養村の管理をしている保養村協力会の皆さん、地元の皆さん方、特に、子育て中のお父さん、お母さんにいいますと、子育て中のお父さんたちは安心して子どもたちを遊べる、少し遠くても、離れた距離があっても、そういったところで遊べるスペースがほしいという意見もあるので、そういったことを含めながら、具体的にどのように活用していただくかを今後、検討したいとおもいます。

議長／1 番 豊村議員

豊村議員／市の提案も含めながら、ここに関する人たち、また地域の方、子育て中の方たちの意見をだしながら、自分たちでここをどういうふうにしたいかをやはり全部、市から提案してもらうではなく、自分たちも一緒にやって、上に繋げていくという形がよいのかと思います。

今後の流れについて、しっかり、そこは進んでいくようお願いしていきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは最後になりますが、市街地活性化と民間活力について、お伺いします。

これは、市のホームページの中のお住もう課さんのお住もう部屋です。

この中に、起業をしたい方、という形で、空き店舗に対する支援の分のところも載っています。

私も温泉通りを歩いたりとかする中で、お店が開いていて、人が並んでいたりしたら、またちょっと違うだろうなと思ったりもしています。

そういうところから、今回、さまざまな人と空き店舗を切り口に、意見交換をさせていただきました。

まずお伺いします。

現状の空き店舗対策について、その支援制度について答弁をお願いします。

議長／井上営業部長

井上営業部長／お尋ねの空き店舗対策ですが、現在の支援事業としては武雄市中心市街地活性化支援事業補助金という名称で、空き店舗対策の補助をしています。

補助率が、県が3分の1、市が3分の1、そして、自己負担という形になっています。

限度額を150万に設定して、支援をしているところです。

ただし、県のほうの事業ですが、商店街に対する補助でございますので、対象エリアとしては、温泉通り、宮野町通り、中町通りの、各商店街です。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／それでは、あわせて、伺います。

その制度について、これまでの過去の問い合わせとか、実際に、いたった実績について、問い合わせについて回答願います。

議長／井上営業部長

井上営業部長／問い合わせを含めてですが、平成21年度から数字を申し上げたいと思います。

店舗配置が2件です。

平成22年度から、平成23年、24年、それぞれ1件ずつ実績があります。

平成25年度については、相談実績が10回ありますが、残念ながら出店にいたったのは0です。

おなじく平成26年度相談実績は6件です。

申請にいたりましたが、申請者の都合で最終的には出店は0です。

なお、平成21年度から平成24年度まで出店した5店舗ですが、こちらは現在も営業いただいています。

平成21年度から平成24年度からの相談件数については持ち合わせておりません。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／平成21年は2件、22、23、24年は各1件、25、26年は実績としてはないが、問い合わせは平成25年に10件、平成26年に6件があると。

問い合わせは、ほかのところからかと思いますが、ここで店を開きたいということで、まず、どんな形、制度についての問い合わせかもしれないですが、やっぱり、それだけの方が、問い合わせをしているという状況が、なんとかうまくつながっていければと率直なところです。

いろいろな要因があると思いますが、実績として、そこまでにいたらなかった要因というのはどういうことが考えられますか。

議長／井上営業部長

井上営業部長／議員ご指摘の通り、せっかくお話をいただきながら、実績にいたらなかった状況がありますが、その主な原因として、やはり、物件、不動産の所有者の方と出店を希望されます事業者の方の、そちらとの意見の相違といえますか、例えば、その物件を改善したいと、改装したいとき、消費者の意見が反映できないとか、希望と合わないとき、そういったところで、大体、そういった意見の相違で、まとまらなかったのが主な原因だと思います。

議長／1 番 豊村議員

豊村議員／なかなか、ここは、難しい問題があるのかなと思いますが、私、今回空き店舗ということを切り口に、先ほども言ったように、いろんな方と意見交換をするなかで、店舗ということで、広く町ということを見ていかないと、難しい面があるのかなと思います。その点については、後ほど伺いますが、先ほど、空き店舗対策については、エリアが限定されていて、そこでの制度がありあますとのことでした。

先日もありましたが、もちろん、そのエリアだけじゃなくてほかのエリアで起業したいとか、店を構えたいということもあります。

現在、ほかの起業についての支援制度、そういうことについては、武雄市としてはどういうことにありますか。

その点について答弁願います。

議長／井上営業部長

井上営業部長／議員ご質問の、中心市街地以外エリアの、周辺部における、そういう創業にたいする支援はないかということですが、現在のところ、制度としてはありません。

ただし、ごく最近ですが、経済産業省と、総務省におきまして、創業支援事業計画を提出した、市町については、認可制度がありまして、それについては、いろいろな補助制度、そういったものが受けられるということです。

武雄市が、それに事業計画を策定して、先ごろ、直近ですが、認可を受けたところです。したがって、今後は、貸付の優位ですとか、それから、補助金を申請しまして、その制度を受ける等々が期待できますので、そういった意味では、周辺部分の創業についても市としても支援をしたいと考えております。

議長／1 番 豊村議員

豊村議員／そのこれまでの限定されたエリア以外の分も、そういう制度が今後はあると。聞くとところによるとその制度は、審査等あって、厳しい部分もあると、ちょっとお伺いしましたが、こういう制度があることにより、より武雄市のほうに、という人が出てくる可能性も高まるわけですから、あわせて、PRのほうもしていただければなと思っております。そのPRという分で、続いて情報発信PRということについて伺います。

起業という点で、まず第一に民間の方のがんばりがあってということが一番でございますが、武雄市にきていただく、武雄で店を構えていただくだけじゃなくて、市として、市外にもPRというのがあると思います。

これまでも特産品のPRであったり、観光についてのPRだったり、そういったことが、市外県外に行われてると思います。

これまでのPRについての答弁をいただけますでしょうか。

議長／井上営業部長

井上営業部長／武雄市につきましては、県内外、観光物販のPRをしています。

平成26年度の実績を、地域別に申し上げますと、九州圏内が9県、中国四国圏内が1件、関西圏内が3件、関東が6件、北信越東北圏内が1件、北海道は2件。

形態としては観光PRに合わせて特産品のPRという状況でして、われわれは物産まつり実行委員会から、それから特産品の振興協議会がありますので、そういった方々、あるいは、楼門朝一に出店されている実行委員の皆さま方、そういった方々にお声かけをして、こういった場所で行っているかということ、友好都市を初めとする自治体とか、あるいは有名百貨店、そうしたところで、観光PRと合わせてやっているところです。

出店いただきます皆さま方の出店の負担費については、市が持ちまして、援助をさせていただいている状況です。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／観光客の推移で出しています。

年々、先日の答弁のときにもありましたが、宿泊客数、日帰りの方の客数も伸びている。そういう状況です。

先ほど、ありましたPRについて、事前に私も資料いただいたので、地図の中に落とし込んで見ました。

これは特産品のPRでいかれた、例えば1つのところにいかれてるのも、1つのまるでしか出していませんが、これは販路拡大という形で、全国へのPRがあると思います。

次は、観光についてのPRですが、九州内の分だけ出しております。

これは、黄色で示してるのが武雄市です。

それ以外の部分で、有田、長崎市、熊本、福岡等に行かれています。

この分で、行かれた、平成24年4月には、福岡に行かれたのが表に出していますが、率直に思ったのが、ぐるっと周りへのPRというのは実績としては行われていなのかなというふうに思いました。

長崎県の佐世保で触れますが、西九州道路の整備計画の図です。

国土交通省、九州地方整備局佐賀国道事務所のホームページから引用させていただいています。

これは連絡を取って引用して良いという許可をいただいています。

例えば西九州道路でみたときに、佐世保に兄貴がいたり、同級生が何人もいたりして、話を聞いたりするが、今後、佐世保から伊万里、福岡にというルートがあります。

もちろん今まで、東に行くには武雄にという形でした。

これは同じく西九州道路のことについて、先ほどの九州地方整備局佐賀国道事務所ホームページに記載されています。

西九州道がつながってくることによって、佐世保から伊万里、唐津、福岡へとどんどん90分時間短縮になるよとPRしています。

私の兄たちの意見ではありますが、佐世保に行って、武雄もある、嬉野もある、今後もしかしたら伊万里という部分もあるかもしれない。

やはり、何か目的を持って行くとなったときにはやはりそこがどういったまちで、目的を持って行きたいと、この町は。

どういう町だから、目的を持っていく、そういうふうにあると、そういった意見が聞かれていました。

たしかにそういう部分はあると思います。

そこで、観光ということだけではなく、生活圏としては車で1時間県内と言え、長崎、福岡辺りも先ほど長崎佐世保とあげたのは、メディアの部分でいったときに佐賀県はテレビで言えば、SAさん、福岡のテレビ局は佐賀のコーナーも持っていて、そこでPRじゃないが、情報発信もあります。

逆に長崎はそういう形がないです。

私も長崎離れて何年かになりますが、そういった形はないです。

情報を受け入れるという分では、同じ隣の県でも福岡と長崎ではちょっと違うのかなとそれは思ってるところです。

その中で先ほどの西九州道のこともありました。

その中で、先日もありました、観光客の割合ということで、宿泊客が、県内が23%、福岡24%、佐賀、福岡をのぞいた、それ以外で17%、もちろん長崎を含みます。

かなり割合としてはまだまだ少ないと思っております。

観光PRということだけではなく、先ほど言いましたように、生活圏ということで、通勤圏

内とか、周辺地域としてのPRを、観光PRだけじゃなくて、例えばお住もう課のモリさんとか、そういった人を連れていったり、移住についてもアピールしたり、相談をしたり、場合によっては、市長も、武雄の強みといったら、子育て、教育であると言われています。教育のほうで、タブレットを持って行って、実際の授業の風景、流せるかはわからないですが、そこをモニタで出してみたりとか。

あとは地域の民間の不動産の人が行ったりとか、もちろん物販の人が行ったりとか。

オール武雄で観光という枠組みだけでなく、広く宣伝隊として近隣に情報発信するのは一つ、交流人口を増やすという動きになると思います。

民間の方も行くことによって、現場の雰囲気味わえるでしょうし、そこでまた会社がより魅力を高めようと形にもつながるとなります。

そこで、先ほど言いました、情報発信について、私が今言いましたように、周辺地域に対する宣伝隊という形でも、あるのではと思いますが、この点について、見解をいただきたいと思います。

答弁願います。

議長／小松市長

小松市長／今の話を聞きまして、確かに福岡のテレビ局を見てると、福岡、佐賀と映ると。確かに夕方はそうだなと、思います。

今後の交通体系を考えた場合に、長崎新幹線ができる。

それで20分の範囲になると。

これからはわれわれも今まで、福岡に向けてのPRというのが比較的多かったと思いますが、長崎を意識して、ぜひPRをしていきたいというふうに思いました。

東、西、それぞれに向けて、われわれも情報発信をしていきたいと思います。

特に長崎については今後力を入れていきたいと思います。

補足あれば部長から答弁お願いします。

議長／1番 豊村議員

豊村議員／そうですね。

やはり積極的に周辺地域に動くことで、変化がでてくるんじゃないかなと思います。

もちろん交流人口を増やす。

もちろん遠くのお客さんを引っ張って来ることもあると思いますが、やはりすぐふらっと行ける気軽な生活範囲として、情報発信に務めていただきたいと思います。

それでは、市街地活性ということで、お話をしました。

これも今まででも質問にもありました。

ちなみに、1999年に武雄市中心市街地活性化基本計画というのが出されております。

私も中身を見ました。

現在、これまでも話があったように図書館、年間100万人が訪れる図書館とかあって、人の動きが一部ではなく、オルレ等もあって、広く変わってきていると思います。

私はその基本計画をつくってくださいということではないが、それぞれのエリアにおいてカラーもあるのかと思いますが、その中で、広く今の人の動きを動勢をみたときに、どういうふうにまちのデザインをつくれるか、コンセプトを持たせられるかがそこが大事なかなと思います。

そこが最初に言いました、空き店舗という部分で、話を意見交換をするときもキーワードとして出てきたところです。

まちの活性についてのキーワードということで、そのまちにコンセプトがあるか、あとは人。

どういう人がいて、どういうふうに関係していく。

ほかの方との交流をどうつなげていくか、人がキーワードであるということでした。

そこで、まちをどういうふうに関係するか、そのことでより魅力あるまちにつなげていくのが大事なかなと思っています。

これからのまちづくり、市街地活性化にむけて、その町のデザインを含めてどのようにお考えでしょうか。

その点について答弁願います。

議長／小松市長

小松市長／先日、新幹線プロジェクトにおいて、今後特に市街地をどうしていくかを今年度議論をしていきたいというふうな話がありまして、私はそれは期待しているところであります。

町のデザインというと、当然中身をどのようにデザインするかというのは大事ですが、おそらくプロセスのデザインがこれから大事になってくるというふうに思います。

誰かが決めたのをその通りやるのではなく、決まるまでにどのように、民間企業、市民の方を巻き込んで、そしてつくっていくのが大事だと思っています。

今後、庁舎もありますし、34年には新幹線の開業があるので、そこに向けて、今市街地のビジョン、計画は今後つくっていく必要があると思っています。

新幹線プロジェクトはたたき台になりますし、計画を作っていくうえで、そのプロセスを大事(だいじ)にしたい。

市民参加をこれを大事(だいじ)にしたいと思っています。

議長／1 番 豊村議員

豊村議員／たとえば、デザインというところでいろいろ調べたところに、延岡市で町のデザインということで検索してもらったときに、興味深い部分が出てきます。

ぜひ皆さんも、調べていただきたいと思います。

市民の皆さんが一緒になって、町のことについて取り組む、そういった取り組みがされていますので、武雄市も今後、民間も一緒に取り組んでいけるように、魅力あるまちとなつて、武雄に行きたいというまちになってくる。

それが市街地活性、民間活力につながっていくと思いますので、ぜひともその点についてお願いいたします。

それでは、私の質問を終了します。

議長／以上で、1 番 豊村議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニタ準備のため、5 分程度休憩します。

＊ 休憩中 (11 : 18) ＊。

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、7 番 池田議員の質問を許可いたします。

ご登壇を求めます。

7 番 池田議員

池田議員／皆さんこんにちは。

議長より登壇の許可をいただきました、7 番、セイハウクラブ、池田 大生の市政事務に対する一般質問を始めます。

一般質問最後の4 番目となりましたが、まさか、午前中に入るとは思っておりませんでした。

最後まで、よろしくお願いします。

今回は、大きく2 点、教育と市政運営について通告をいたしております。

よろしくお願いします。

教育についてですが、ICTを活用した教育で全小学校にタブレットが導入され、1 年2 カ月が経過しようとしています。

また、今年度より、全中学校にも導入をされました。

5 月2 8 日には、今年度初めてのスマイル学習オープンデーが東川登小学校で実施され、私も参加しました。

小松市長も忙しい中見学をされました。

私ども現場でお会いしましたが、授業終了後、子どもたちからサイン攻めにあい、絶大な人気ぶりを発揮されていました。

市長として見学されてどう感じられたのか、最初にお尋ねします。

議長／小松市長

小松市長／私も現場に来まして、一番感じたのは、子どもたちの楽しそうな表情です。

楽しそうな表情を見ていると、ああ、この授業を継続して進めてよかったなと、心の底から実感いたしました。

やはり、子どもたちが楽しく学べると。

楽しく学べることほど、動機づけとして強いものはないと思っています。

引き続きこのICTの事業は、さらに前に進めていきたいと思っています。

議長／7番 池田議員

池田議員／ICTを活用した教育について、6月9日に、第1次検証報告ということで、記者発表がなされたところですが、この報告をどのように捉えられ、どのようにいかされるのか、教育長にお尋ねします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／こういう形で、正式に出していただいています。

私どもが主観的に紹介するわけではなく、客観的な評価しています。

1番客観的な資料は、全国県の学習調査がありますが、これを待っていたら、8月くらいになるので、1年を振り返って今年度からさらに改善したり、取り組んだりすることがないかということで、報告いただいています。

特に最後のほうに課題とか提案をいただいていますので、極力その早急に対応をして進めていきたいというふうに思っています。

議長／7番 池田議員

池田議員／今、教育長のほうから答弁がありましたように、課題、指摘、提案も盛り込まれています。

そこで、学年に応じた情報リテラシー教育の実施、検証結果の的確な反映、スマイル学習が効果的な学年や教科の分析などを提案されております。

この中で、情報リテラシー教育の実施の必要性とあります。

この根底にあるのは、情報モラル教育です。

3月定例会のおりには、ちょっとした行き違いで、お聞きすることができませんでした。教育長は、3月に開かれた、県ICT利活用教育推進協議会のおりに、ICTの先進地は、情報モラルにおいても先進地にでなければならないと、覚悟を決めて発言したとのことでした。上田議員からも3月議会のおりに、紹介がありました、武雄市連合PTAの基本方針として、携帯電話やスマートフォン等は持たせない。

裏面には、持たせた場合は保護者の責任としますと武雄市連合会の基本方針を出されています。

一人1台のタブレットを貸与されてます、武雄市の責任として、その後具体的にどのように取り組まれたのかお尋ねします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／ちょっと、長くなりますが、すみません。

今の情報の発信されている状況は、これは一市町でどうこうできる問題でないし、国策として進めるものだと思います。

もちろん文科省もされています。

武雄市の場合でありますけども、スマイル学習を算数と理科の部会で進めていただくときに、並行して、情報モラルセキュリティ部会を立ち上げまして、系統的な指導ということで、こういう形で、段階を追って、こういうことを指導することを各学校に提案をしているところです。

指導をしているところです。

そういうことで、並行して進めること、それから、市連Pから出されました、これは、大変有り難いと思いますし、学校に持ち込まれる、課題が、学校だけで解決はできない。

家庭だけでもできない部分もありますので、もっとも連携して進めなければ効果はでないし、子どもたちが本当に、難しい時代に戸惑うことになる、大変ありがたく思っております。

そういうことで、市連Pとも連携して進めていきたいと思っております。

議長／7番 池田議員

池田議員／事業と並行して、情報セキュリティ部会を立ち上げ、指導しておられると、計画的に実行されていると、そのようを見させていただいて、思っています。

しかし、本当に先ほどいわれたように、言われたように、市町単位でできないほど今の情報社会のここではいけないような自体もこの武雄市でも起こっています。

本当に子どもたちの安全、安心をまもっていくために、ICT進めると同時に、子どもたちの

安全、安心のために、この情報モラル教育をしっかりやっていただきたいと思います。
そして、このICT教育の検証として、教育庁は客観的な検証をとということでした。
今回の検証は第三者的な立場としての検証という捉え方でよろしいでしょうか。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／第三者的という見方も当然です。
それから、第一次の報告という形にしてもらっています。
先ほど言いました、8月等の公表をしたあとに、第二次の報告をお願いをいたしております。
これは何を検証するかというがあるので、第三者的ということは一番私どもの主観的な
評価でなくという形で、そういう意味では第三者ですと言えらと思います。
タブレットの導入についてはどうなのか、あるいは、その利用についてはどうなのか子ども
たち、教師、保護者、武雄市の教育にとってどうなのか、あらゆる面からの検証という
ことになります。

議長／7番 池田議員

池田議員／第三者的ということで、その学習に対する効果の検証がこの中で大きく示され
ていると私は感じていますが。
それと、先ほど申されました、当事者として武雄としてののですが、武雄市としての主観的
な検証もやはり必要だと思っています。
武雄として、総括的に1年間を振り返って検証されたのかをお尋ねします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／学習面のほうが中心になっていとお聞きしましたが、きょうの佐賀新聞等
にでていたように、学習状況等に対しまして、非常に膨大なものですから、検証するのは、
時間がかかるという面で、二次報告にはそうさせらと思います。
武雄市内での評価ですが、まさに事業ごとにでも子どもたちの意識とか取り組みについて
は評価できます。
もちろん先生方、校長先生方の評価も進めていくということです。

議長／7番 池田議員

池田議員／事業ごとに、各学校ごとですね、できるということです。

主観的な立場として、現場検証を行った上で、それらの情報を共有すると、各学校が共有するのも大事だとも思います。

すべてがよき方向にむかうとおもうので、よろしくお願いします。

冒頭に東川登小学校のオープンデーについて市長に伺いました。

市長の感想の中に子どもたちの笑顔、楽しそうに、楽しく、タブレットの授業を待っている姿を私も目の当たりにしました。

子どもたちもわくわくしながら先生にタブレットまだ使わないのと、先生に詰め寄るではないが、先生に、そう心待ちにした言葉を聞いています。

その中で、45分の授業時間で最後の15分でタブレットが使われ、電源を入れ、IDと入力し、保存、全員が約10分ほどかかりました。

残り5分くらいで、問題とアンケートという流れでした。

毎回、IDとパスワードを入力しているかは疑問だが、授業中のオープンデーの回りの毎回毎回ありましようけれども、授業中のトラブル、説明会の回りの質疑等において教育長、市長に報告があったのか、お尋ねをします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／昨年度は各小学校、年22回、それ以上の情報公開をしていただきました。

ねらいとしては、タブレットをこういうように使ってはどうか、というようなお互いの研修もありますし、それから普段の使っているタブレットの扱い方等の研修にもなりますし、そういうことで今年度も小学校、中学校、各1回はオープンデーを計画をしてもらっています。

そういう形で、いろいろ研修をしながら進めているということでした、もちろん、毎回、大事なことについては、私のほうも報告を受けております。

行けないときも当然あります。

その前の年に、タブレット導入する説明会のときに、一番心配されたのが、1時間中使いつぱなしで目が悪くなる、健康によくないのではということでした。

今みられて、少ししか使わないという声も聞こえますが、あくまで道具として、最初、最後、子どもたちの理解の程度を見るということで、使っているというのがスマイル学習の現実であります。

もちろんほかの、使い方もしていますが。

そういうことで使うときに休み時間に電源を入れておくとか、なんとかということも昨年1年間見て、先生方もずいぶん頑張って、研修も進めてもらっていますが、全国でも初の試みなので、いろんなそういうことで、お互いに学び合っているという段階もあると思っています。

議長／7番 池田議員

池田議員／教育長と市長にということでお願いしたところですが。

オープンデーのときに、3年生の算数で、9台中1台のタブレットの電源が入らなかったのか、フリーズしたのかわかりませんが、支援員の方が交換をされていました。

私の手元にある資料では昨年度、故障、不具合総数287件。

その中で、子どもたちが壊したという破損のケースが31件。

原因不明含め、不良品率が8.1%となっている。

この数字が高いのか、低いのかわかりませんが、私は高いほうではないのかなと思っています。

その第一次検証ですが、この件についても第二次が秋頃行われるということでございます。学力調査状況の発表のあと、されるということですが、この一次調査報告書の中にもですね、書かれています。

先生方、非常に頑張って、コンテンツをつくっておられます。

先ほど、教育長の答弁にもあったように、どのように使っていくか、使い方についても一生懸命研究をされ、子どもたちの学力向上につとめていくということで、非常に頑張っておられます。

負担感に感じず、確かに新たな負担かと思いますが、それを乗り越え頑張っている現場であります。

そのような中、市長、そのとき、質疑応答のときはお帰りになられていました。

また、そのような、報告があったのか、なかったのかわかりませんが、予算の権限を持つ、また執行賢者として、このような現場を検証し、改善し、自信を持てるICT教育にする必要があると思います。

前に進めていくためにも、現場の検証をし、改善をしていただきたいですが、市長いかがでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／このICT教育については、浦郷教育長はじめ、スマイル学習課、現場の先生の方々、皆さん一致団結して、頑張っているというところで、浦郷教育長の判断のもと、していただいているところであります。

私と教育長も、普段からいろいろ意思疎通をしまして、現状の課題、今後の方針、そういったあたりについても意見交換をしているところであります。

今後も、一時的には、教育委員会がそこは進めていきますが、私としては、信頼できる浦郷教育長をはじめ、教育委員会の皆さんと意見交換を重ねて、そして、しっかりと現状把握して、予算にも予算案として反映していきたいと考えております。

議長／7番 池田議員

池田議員／連携をとりながら、前に進めていくと、現状の把握にもしつかりつとめ、予算にも反映されるということをおっしゃっていただきました。

必ず、改善をしていただきたいと思います。

今回のこども教育会議、今月24日でしたよね。

協議内容も、ICT利活用教育についてでした。

しっかりこの中でもお話を進めていきたいと思います。

圧倒的な教育の充実と申されました。

教育改革で、よい結果ならば、何もないでしょう。

悪い結果なら、犠牲になるのは、大人ではなく、子どもたちであります。

全ては子どもたちのために、お願いしたいと思います。

次に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が施行され、4月1日より、新教育行政がスタートしました。

総合教育会議が設置され、教育委員会の所管、役割がこれまでどう違うのかお尋ねいたします。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／教育委員会の仕事はどう違うかということですね。

ご存知のとおり、いろんな全国的な教育課題が出たときに、教育委員会は何をしているのかというような意見がたびたび聞かれました。

これは迅速性についても責任感においてそうでありまして、この6、70年近く of 反省のもとにたって、より責任感をもった教育委員会へと、迅速に対応できる教育委員会へとということで改正がなされたわけでした、私ども、新たな気持ちで取り組みにあたっていると。

一番武雄市の場合、一番ありがたいのは、私を除いて、9名いらっしゃいます。

この9名いらっしゃるのが、大変いろんな面で新たな気付きをよせていただいて、新たな考えを加えていただいているという、そういう意味で、まさに、総合教育会議がよそで数回というときに、毎月という市長の思いと連動して、より協力に進めたいというふうに思っております。

議長／7番 池田議員

池田議員／迅速に対応するための、今回の制度改革ということでございますが、本当に、子どもたちの環境、めまぐるしく変わってます。

さまざまな対応事項が今後出てきますが、毎月1回会議されている中に、緊急事態に備えることもその中の議論の調整の一つだと思います。

本当によろしく願いいたします。

武雄市連合PTA活動の中に、教育委員との懇談会がありまして、コウノ(?)PTA会長が参加をして行われます。

私も数回参加したことがあり、思い起こせば教育長とは、非常に長い付き合いになっているのではないかと考えておりますが、当時からさまざまな活発な意見が出ていました。

教育行政にしっかりと反映されていると考えております。

さて、1月29日の臨時議会において、新しく5名の教育委員さんが任命をされました。

今回は、保護者と、議員候補とのことで公募をされました。

今、現在、先ほど教育長のほうからも答弁ありましたが、9名の委員さんがおられ、9名の委員さんの中に、北方の方がおられません。

健康ある教育行政の発展をかんがみて、今回5名の募集でしたが、中学、高校区も5つあります。

要件を満たせば、推薦とか、そういう方法とか考えられると思いますが、ぜひ広く委員さんを配置していただきたいという思いから、そういうような方法が考えられないのか、お尋ねいたします。

議長／北川政策部長

北川政策部長／教育委員の選任ですが、議員さんご承知の通り、教育委員の任命につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第4条事項で、委員は当該地方公共団体の地方の被選挙権を有するもので、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関する識見をゆうするもの、地方公共団体の長が、議会の任命をすることになっています。

この法律を受けて、今年今回2月の任命に関しては、市内全域からの公募によるということで、やりましたが、地域割りの人選はしてはおりません。

教育委員については、あくまでも人物本位でありまして、必ずしも各中学校とは限らず、地域のバランスを見て、教育委員会のご意見をいただいた上で、人選をして任命をしているところです。

議長／7番 池田議員

池田議員／いろんな角度から考えていただくということで、よろしくお願いいたします。

総合教育会議については、先ほど、豊村議員さん、先日の山口裕子議員さんからも、詳しく私が聞こうとして思っていたこと以上のことを聞かれましたので、こちらのほうは省かせていただきます。

それで、教育大綱の策定についても、るる詳しく説明があつておりましたので割愛をさせていただきます。

市政運営についてであります。

平成18年、3月1日、旧武雄市、旧山内町、旧北方町の区域を持って、新しく武雄市が誕生し、来年で10年がたとうとしています。

平成17年4月に、新市計画が発行され、平成19年には、武雄市総合計画が策定されました。10年を迎えるにあたり、先ほど、答弁の中にもあつておりましたが、平成18年以降にも、財政の比較とかいろいろ検証をされておられると思っております。

そういう検証を受け、新たに総合計画を策定されるのかお尋ねをいたします。

議長／中野つながる部長

中野つながる部長／総合計画の策定についてのお尋ねでございますが、現在、19年から28年度の10年のスパンとして、総合計画を策定しています。

今後時代変化が激しいことが予想されますので、期間的には、5年をスパンとして、基本構想、基本計画、そういったようになるように計画を策定していきたいと考えています。以上です。

議長／7番 池田議員

池田議員／5年程度の、時代の変化に応じたものを策定していきたいということでございます。

総合計画というものは、市の将来像を描くものであるんじゃないかとおもっておりますので、ぜひ武雄市の、進行、発展などしっかり盛り込んだ総合計画を策定していただきたいをお願いをいたします。

総合戦略にかんしてですが、先に質問がありました、市長が今と未来を語る会での意見等を反映され、今後、秋頃、までに策定をされるとございました。

われわれも今後議会においてしっかりと、審議をしていきたいと思っております。

それでは、地方創生について、最後の質問になりますが、最後というか、2、3お聞きします。

前市長との会談の中で新聞等でも報道がありました。

市長のブログにもありました、地方創生アドバイザーにということでございました。

この件について、公式なのか、非公式なのか。

また、県内の他の自治体においてそのような動きとか、事例があるのか、要請を受けられているのか、お尋ねします。

議長／小松市長

小松市長／まず、県内、市町で要請があるのかどうかは私は承知しておりません。
先日の会談を受けた話について、地方創生アドバイザーを任命する、しないについては、これについては、最終的に市長の決定事項ですので、私にお任せいただければと思います。

議長／7番 池田議員

池田議員／今の中で、このお話は、市長からの依頼なのか、ほかからアドバイスを受けての要請なのか、お尋ねします。

議長／まもなく正午となりますが、このまま一般質問を続けたいと思います。
小松市長

小松市長／私からの提案でございます。

議長／7番 池田議員

池田議員／市長からの依頼ということでございます。
先ほど市長の答弁でもありました、市政アドバイザー、武雄市特別顧問の任命については、市長の職務事項であると私も存じあげております。
地方創生については、県との連携が不可欠です。
GM21も動き出したばかりです。
さまざまな動きに、メリット、デメリットがあります。
この話が、武雄市にとってプラスになるのか、マイナスになるのか、どのようにお考えかお尋ねします。

議長／小松市長

小松市長／現段階で、就任を要請し、決定しているような状況ではございませんので、そういう中で、今の質問にたいしてちょっとお答えできることは、ないかと思っております。

議長／7番 池田議員

池田議員／私は、この件について、いろんな意見、賛否両論あると思います。
そのなかで、私は、県に誤ったメッセージを発信しているような気がします。

県との関係、他の自治体との関係を、十分に考えていただきたい。

市長は、武雄市の当然トップであります。

ここの個人のことは言及いたしません、小松市長の、小松丸は出航したばかりです。

武雄市のトップとして、責任もあります。

今後、小松カラーを存分に出していただくためにも、頼りになる副市長もおられます。

たくさんの部下というか、上司の方もたくさんおられます。

そして、この議会もあります。

ほかの船長に頼るのは、まだ少し早いのではないかと申し添え、私の池田 大生の一般質問を終わります。

議長／静かに。

以上で、7番 池田議員の質問を終了させていただきます。

以上で、本日の日程はすべて終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

どうもおつかれさまでした。